

蕭山県長河鎮来姓祠産簿剖析

——清代浙東宗族における祠産形成と組織統合の過程——

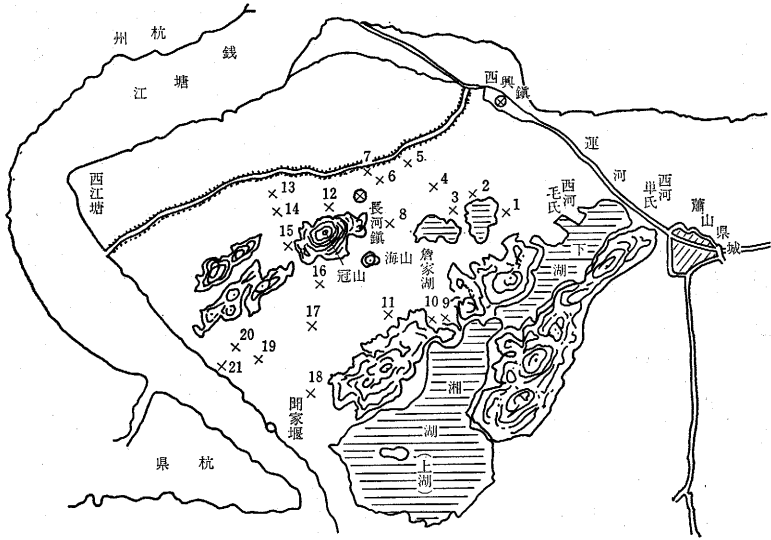
田 仲 一 成

一 序

本稿は、清代の江南地域において地域社会を支配していた大宗族、所謂「郷族」がいかなる過程を経てその同族組織を拡大したか、について検討する。具体的には浙東、蕭山県、長河鎮の郷族、来氏の事例をとりあげて（図1）、以下の点を追究する。

- (1) 長河地区において来氏一族は他の弱小宗族に対してどのような優越的地位に立っていたか。
- (2) 来氏一族の祠産は族内のいかなる階層を基盤としてどのように形成されたか。
- (3) 来氏は同族組織の拡大のためにその祠産をどのように運用したか。
- (4) 来氏は分派の間の輩行字の分裂をどのように統合したか。
- (5) 来氏一族において、祠産形成、輩行字統合、祠祭拡大などの組織努力はどのような相互関連の下に推進されたか。

圖1：蕭山縣長河鎮近傍地圖。



- | | | |
|--------|---------|---------|
| 1. 湖頭陳 | 8. 湯家橋 | 15. 孔家岐 |
| 2. 坂里 | 9. 趙家浜 | 16. 張家里 |
| 3. 夏家 | 10. 湯家井 | 17. 王家里 |
| 4. 廟後王 | 11. 張家村 | 18. 東山陳 |
| 5. 襄七 | 12. 花園周 | 19. 高橋 |
| 6. 下新廟 | 13. 傅家村 | 20. 韓家埭 |
| 7. 田里來 | 14. 毛家堰 | 21. 潭頭 |

か。

以下、主として来兆恒等輯『長河来氏族譜』（民国十一年会宗堂刊本）所収の祠産簿等の記載により上記の順に従って検討する。

二 長河来氏の地域支配

紹甬運河の西の起点、西興鎮の西南に長河鎮がある。蕭山県城の西方五キロ、錢塘江を隔てて杭州と対面する位置にある。ここには南宋以来、河南からこの地に移住してきた来氏一族が聚居してきた。最初に蕭山県に入ったのは河南来氏五世祖延紹であったと言われるが、この延紹を蕭山来氏の始祖として七世に当る思名の代に多くの分派に分裂し、その主力は長河及びその近隣に散居したという（図2）。このうち長河に居を定めた思名の子孫は元末までに六支に分れるが（図3）、明代に入って繁栄して蕭山県屈指の名族となった。明清兩代を通じて、一九名の進士と三七名の挙人を出している。又、清代の蕭山県志にはこの一族から三八名の人物が選ばれて人物伝に名士として記録されている（図3）。明代以降、各世代にわたって平均して官途の成功者を輩出しており、従って人口の増加も著しく、民国期には丁男約四〇〇〇名、女子を含めれば、総人口約一万人に達している（表1）。

さて、この来氏一族はこの地区の最大の大地主集団としての勢力を有していた。一族の公産は、義学田約二九〇畝、蒸嘗田約二九〇畝、合計で六〇〇畝にも達しており、その勢力の一端が窺われる。そのうち、義学田については、祠産簿に田土の位置、佃戸の姓名、佃戸の住所などの記録が残されており、それによって来氏一族の地域支配の情況を知ることができる。今、これを佃戸の姓氏別に列記する（表2）。

圖 2：長河來氏世系圖 I (宋元)

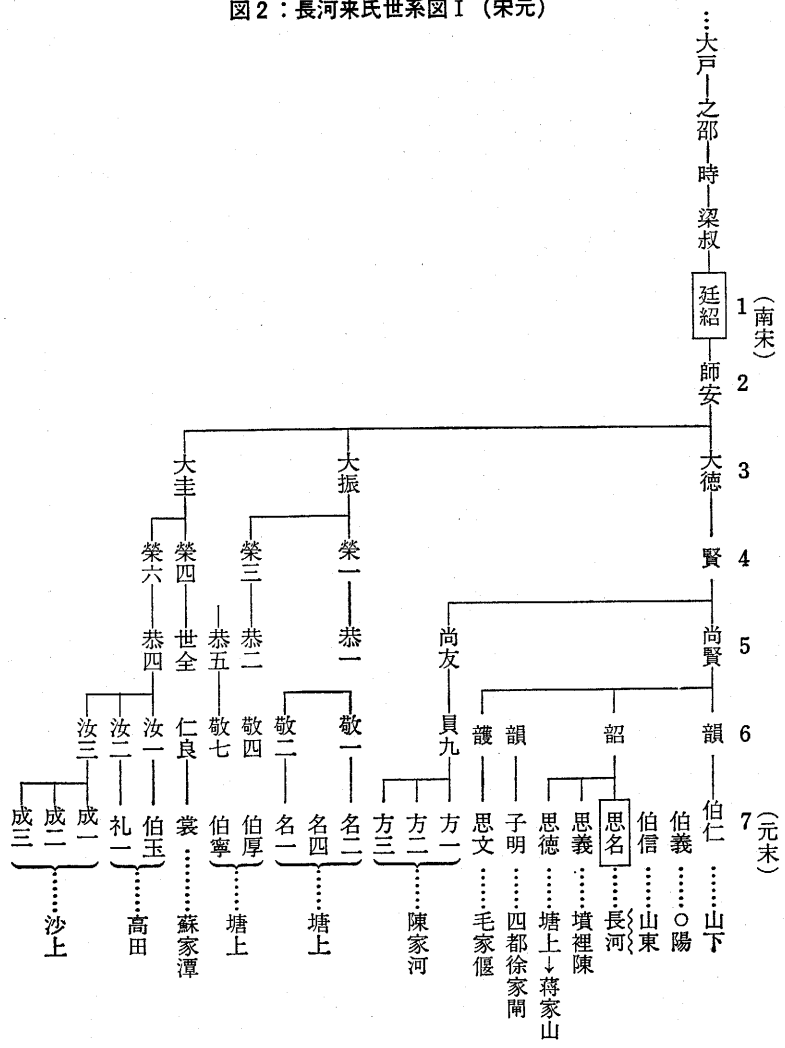


表 1 : 長河来氏世次別人丁数及官途資格者数統計表

	世次支派別丁数							世次別官途資格者数												
	大 支	二 支	三 支	四 支	五 支	六 支	計	雜 職	捐 官	生 員					監 生	貢 生	舉 武	人 文	進 武	士 文
										武 生	庠 生	廩 生	增 庠 生	小 計						
10																0	0	2	0	1
11	18	27	5	6	8	5	69									1	0	0	0	0
12	49	69	5	18	21	7	170									2	0	2	0	0
13	105	143	8	36	25	13	332									3	0	2	0	3
14	167	211	15	57	49	19	620									1	0	3	0	2
15	197	225	21	73	61	29	606	2	0	0	39	10	4	53	11	4	0	2	0	0
16	294	281	22	119	102	24	842	3	1	8	63	4	7	82	5	3	0	0	0	2
17	445	413	33	180	159	30	1260	8	0	9	47	12	5	73	14	11	2	3	0	2
18	648	571	60	290	127	33	1729	3	0	11	27	8	2	48	30	6	1	2	2	3
19	801	747	84	350	186	35	2203	2	0	18	22	9	2	51	61	2	7	3	1	2
20	1040	910	115	492	337	31	2925	13	2	14	25	7	2	48	70	9	5	5	0	0
21	1238	1059	150	610	431	22	3510	19	13	14	32	8	3	57	55	8	0	4	0	2
22	1330	1129	186	688	426	14	3772	26	23	11	32	10	1	54	94	10	2	3	0	1
23	1301	1098	180	740	433	16	3768									11	1	3	0	1
24	1247	1038	131	708	404	4	3532									15	0	3	0	1
																86	18	37	3	19

表 2：長河來氏義學田佃戶名表

	現佃戶名	現佃戶居住地	旧佃戶名	田地坐落	田地面積	租米額	畝当り取租
來姓	來浩坤	長河世科第	周世福	結蛛坂	2.055畝	1.90石	0.92
	"	"	鄭觀言	後坂	1.361	1.30	0.95
	來阿丙、來錦材	長河卯字里	來文貴	裡湖坂	1.933	2.00	1.03
	來阿丙、來汝春	"	來文貴	卯字里坂	5.021	5.10	1.01
	來濟世	長河祠堂	來財宝	長河祠堂坂	4.435	4.20	0.95
	來順昭	"朝大房		夏家坂	0.822	1.25	1.52
	來子賢	"祥大房	來福增	東河坂	2.127	2.32	1.09
	來宝洪	"襄七房		下庄坂	2.500	3.20	1.28
	"	" " "		"	2.195	2.20	1.00
	來阿增	"潘家橋	楊慎德	潘家橋	2.286	2.40	1.05
	夾士賓	湯家井	來朝貴	湯家井	0.784	0.60	0.76
	"	"	翁小春	下湖坂	1.578	0.90	0.57
	來阿九	田里來	來錦林	更樓池沿塘坂	1.964	1.80	0.91
	來宝仙	沿山孔家		沿山孔家坂	0.800	0.90	1.12
	來正容	柴家湖	來金明	章蘇坂	2.195	2.30	1.05
	來增瑞	詹家湖沿	孔繼桃	詹家湖	2.253	1.10	0.48
	來阿富、王菊生	月湾里、孫家埭	來錦林、來純堂	方家橋	3.380	3.30	0.97
	來長發	毛家堰	來長亭	新河坂	3.582	3.60	1.00
	來妙英	"		毛家堰	1.663	1.70	1.02
	來小松、來阿福	潭頭	華廷聖	潭頭後坂	1.450	1.20	0.82
	"	"		潭頭坂	2.897	3.00	1.03
(來昭泉)	老莊	來慶衍	陳家河坂	2.151	2.20	1.02	
(張長寿)	陳家河	來汝霖					
湯姓	湯丙坤	湯家橋	湯宝伝	湯家橋	2.320	4.60	0.87
	"	"	"	"	2.943		
	湯小琴	"	湯松紀	"	2.233	2.50	1.12
	湯景福	"	湯維榮、湯維瑞	"	4.600	4.40	1.01
	湯雲鳳	"	湯学誥	湯家坂	1.000		
	湯彩順	"	湯炳堯	海山坂	1.310	3.20	1.18
	"	"	"	"	1.382		
	湯炳堯	"	湯長寿	"	1.300	1.30	1.00
	"	"	"	"	1.100	1.50	1.36
	"	"	"	"	4.000	3.00	0.75
	湯莊順	"	湯炳堯	"	0.500	1.90	0.96
	"	"	"	"	1.469		
	湯利松	"	沈廷福	下湖坂	1.983	1.65	0.83
	湯福建	"	湯順標	海山坂	3.890	2.60	0.66
沈金蘭	沈樹滋						

蕭山県長河鎮來姓祠產簿剖析

沈姓	沈繼全	湯家橋	來克明	方家橋	3.343	} 4.70	1.13
	"	"	"	"	0.800		
	沈金	"	沈毅明	湯家橋、下湖坂	2.521	2.60	1.03
	"	"	沈金	"	2.680	2.00	0.74
	沈長生	下新廟塘	孫國順	下新廟坂	2.900	} 錢7千文	
"	"	"	"	1.800			
張姓	張錫全	毛家堰		毛家堰坂	2.000	2.20	1.10
	張阿丙	張家里	來興周	興隆橋	3.000	3.00	1.00
	張松福、張咬齋	張家里	張元位	衙堂河坂	2.910	2.80	0.96
	張鶴宝	張家村	張國瑞、張風高	新橋坂	2.100	2.20	1.04
王姓	王錦賢	廟後王	王長生	石坂庄河南	4.104	4.00	1.07
	"	"	"	石坂庄河東	3.150	3.00	0.95
	"	"	王有林	太和廟河東	3.296	2.80	0.85
	王禹來、王小泉	王家里	王思思、王思義、林來朋	金家浜	7.616	4.00	0.52
	王禹福	"	王士林	西河坂	4.193	4.20	1.00
	王菊生	孫家埭	來純堂	義燕坂	3.910	4.80	1.22
章姓	章丙福	章蘇	蘇學傳	黃牛池	0.800	0.90	1.12
	章正海	"	"	章蘇坂	0.900	0.90	1.00
	章鳳昭	"	章雨川	荷花池坂	2.081	2.20	1.05
孫姓	孫美祺	塘子堰	孫有元、韓增錫	下湖坂	3.720	} 9.20	} 1.02
	"	"	"	"	4.546		
	"	"	"	"	0.700		
	孫其昌	孫家埭	來學德	方家橋	1.743	2.00	1.14
	孫福照	祥子橋	孫擣子	祥子橋	2.438	2.40	0.98
	孫阿照	鏤底地	孫元法	火燒坂	3.916	4.20	1.07
	孫浩泉	高橋孫	韓興祖	小河坂	2.552	1.70	0.66
	孫錦鼈	韓家埭	孔昭美	韓家埭	1.730	1.75	1.01
	孫宝林	井頭孫	孫士能	衆人橋	2.273	2.00	0.88
	孫錫栓	"	孫葆生、孫阿海	義燕坂	3.910	} 4.8	} 0.89
	華阿奎	"	華長春	"	1.480		
華姓	華長庚、華慶朝	潭頭	華廷永、來小松	潭頭坂	2.080	2.15	0.76
	華小金	"	華之雲	"	1.935	1.6	0.51
	華禮生、華來春、華阿宝	橋南華家		五聖堂坂	5.180	5.90	1.13
	勞姓	勞世發	勞家里	勞佐佩	東河坂	0.530	0.58
	勞桂芳	"	勞佐才	"	1.983	2.20	1.11
	勞來生	"	勞世德	"	1.536	1.70	1.11
韓姓	韓阿虎	韓家埭	華竹初	"	2.695	3.00	1.11
	韓增福	傅家峙	湯宝傳	懸空墩	4.415	2.00	0.45
楊姓	楊阿高	陳家河	楊文瑞	下湖坂	5.511	4.90	0.88
	楊阿槐		來繼能	花園周	1.978	2.0	1.01

齋山県長河来鎮姓祠産簿剖析

趙姓	趙廷春	鑊底池	来鳳朝	陳家橋	3.000	2.90	0.96
	"	"	"	"	5.100	1.57	0.30
顧姓	趙長福	坂里孫	徐聖傳	楊家河	2.503	2.50	1.00
	顧茂勳、顧貴蘭	孔家駁	孔繼曾	鷄籠臨坂	2.354	2.20	0.93
	顧長庚	"	孔広福	孔家坎坂	11.936	4.32	0.55
	米阿儒	"	米慶餘	"		2.32	
孔姓	孔憲思	韓家埭	孔昭美	韓家埭	0.570	0.65	1.14
	孔憲材	毛家堰	孔繼鴻	毛家堰、前山坂	2.852	4.0	0.80
	"	"	"	" "	2.295		
陳姓	陳阿標	湖頭陳	李成鳳、周高位、趙在雲	董家橋	11.854	11.80	1.00
	陳咬膽	季家里	盛申甫	董家潭	3.032	2.20	0.72
	陳宝林	閘上橋		東山陳	4.632	5.30	1.14
周姓	周瑞金	花園周	金瑞元、鄭錦順	花園周	2.321	2.00	0.86
	周汝賢		周世民	後坂	6.591	7.00	1.06
詹姓	詹校才		詹裕堂	"			
黃姓	黃瑞堯	後墻門	来三二	後墻門坂	2.200	2.20	1.00
虞姓	虞傳進	朝大房	徐聖傳	趙家浜	3.272	3.40	1.03
富姓	富小貴	朝大房		董家潭	2.500	1.10	0.44
戴姓	戴阿成	湯家井	沈金	湯家井	5.428	5.20	0.95
李姓	李子久	祥子橋	孫鐘靈	徐桐橋坂	2.688	3.00	1.11
味姓	朱炳順	冠山上	湯長生	長池坂	2.100	2.20	1.04
金姓	金茂坤	長池沿	金瑞元	"	3.000	2.80	0.93
夏姓	夏啓邦			夏家里木橋頭	2.500	2.70	1.08
許姓	許口口	許家里	許毓智	橋頭王	2.511	2.10	0.83
郭姓	郭照俊	郭家里		郭家里	3.990	4.00	1.00
	"	"		"	0.995	2.00	2.02
胡姓	胡傳順	河兜里	吳錦華	藍田章	1.800	1.90	1.05
	?	?		董家橋路辺	2.000	2.00	1.00
					284.431	262.73	0.92

これをみると、佃戸総数百十名のうち、同族の来姓佃戸は一九名、出租面積四〇畝にすぎず、残りの二四〇畝は、湯、沈、張、王、章、孫、華、勞、韓、楊、趙、顧、孔、陳、周など、多数の小姓に佃作させている。表に示された各義学田の位置、或はこれらの義学田に近接して居住していると見られる佃戸の住所にはその位置を特定できないものが少なくないが、現時点で判明する限りにおいて、図1の地図の上に×印により示しておいた。これを見ると、これらの地点は必ずしも長河鎮の周

辺に偏ることなく、この地域一帯に広く分布していることがわかる。この地区には、長河鎮以外に大きな聚落はなく、散在する多数の小村落は、概ね単姓村落と見られるから、結局、長河来氏はその大地主（鎮居地主）としての優越的地位を通して、この地区一帯の小宗族村落を全体的に支配していたと見ることができよう。この意味において、この長河来氏は、この地区の所謂「郷族」に当たるものと見てよいであろう。

三 長河来氏の族内階層構成と祠産形成

さて、来氏は明初以来、進士を輩出した名族ではあったが、族譜の編纂は割合におそく、蕭山来氏二世祖の勛（字宗亮）が明初宣徳年間に編んだものが最初である。また宗祠祠堂の建設も六世祖鶴（字時沖）により嘉靖七年になって漸やく実現したというから、これも名族の割には遅い方である。分派が多く、六つに分岐した支派の統一が余りよくとれていなかったためであろうか。従って、宗祠の祠堂や祭祀を維持するための祠産の形成もおくれていて、明代には全く着手されず清代も康熙二〇年まで下って、漸やくその時の族内指導者、進士来集之(1)の主唱で基金が創設されるに至ったのである。このとき来集之は、一族の富裕層に所有田土に比例して銀両を醸金するよう強制した。その条例は次の如くである。

一、凡富家以田為則、百畝者約出一兩、千畝者約出十兩。有慷慨而願額外加出者聽。下百畝者、自一錢以上、隨力樂輸、不拘多寡。

この呼びかけに応じて、約百十名の有力者から祠産の基礎資金が集められた。祠産簿には、当時の醸金状況が記録されているが、醸金者は戸を単位として表示され、人名（戸主名）は表記されていない。戸名もまたその戸の輩行字

と排行番号の組合せで表示しているにとどまる。例えば、驄一五房、契一房、恒六房のごときである。ただし、この輩行字及び排行番号の組合せで表示される戸の代表者（戸長）は、族譜の各人小伝の中から康熙二〇年に生存していた人物的をしぼって検索することによって容易に特定し得る。若干、該当個人名を見出し得ない戸名もあるが、極く少数である。従って、以下、この醸金各戸の表示にあたっては、各戸の輩行字、排行番号、醸金額の他、検索し得た戸長名、その生卒年、官途資格、及び醸金額から逆算し得る保有田畝数を併せ表示する（表3）。各戸の排列は、醸金額の多寡の順による。これは自ら保有田畝数の差等の順に並ぶ結果になるが、更に田畝保有高の階層を表示するため、仮に次のような区分を用いて分類しておく。

- 一 大地主 保有田畝三〇〇畝以上
- 二 中地主 保有田畝一〇〇〜二九九畝
- 三 小地主 保有田畝五〇〜九九畝
- 四 富 農 保有田畝二〇〜四九畝
- 五 中 農 保有田畝八〜一九畝

なお、保有田畝数の逆算に当たっては、上述の条例に示された比例計算により、捐銀一両の者は百畝、捐銀一〇両の者は壹千畝の田を所有するものと推定し、他はこれにならう。銅錢壹千文は銀〇・八両（八錢）に当たるものとして取り扱う。また、康熙二〇〜二二年以前に戸長が死亡しているケースでは、その子孫が旧戸長名義で醸金しているものと推定する。捐田者の階層は不明なので、末尾に付載しておく。

表3：長河來氏祠產釀捐戶名表

級別	房支	世次	戶(房)名	戶長名	戶長生卒年	官途資格	推定所有田畝額(畝)	捐銀額(丙)	捐錢額(文)	捐田(畝)
大地主	四支	16世	驄15房	集之	萬曆32~康熙21	進士	1000.00	10.0		
	大支	17世	恒6房	大章	萬曆40~康熙27	庠生	800.00	8.0		
	四支	17世	楠8房	燕雯	順治5~康熙43	進士	800.00	8.0		
	六支	15世	奕1房	僕	萬曆43~康熙21	郡庠生	800.00	8.0		
	大支	17世	恒9房	日宣	萬曆42~康熙22	庠生	500.00	5.0		
	四支	17世	楠2房	豹雯	崇禎11~康熙58	庠生	500.00	5.0		
	大支	19世	鼎6房	彥錫	崇禎16~康熙23	庠生	440.00	4.4		
	大支	18世	蕃18房	而烈	順治5~康熙30	贈儒林郎	360.00	3.6		
	四支	17世	楠4房	龍雯	崇禎13~康熙20	庠生	300.00	3.0		
	中地主	大支	17世	理9房	上彬	萬曆36~康熙19		260.00	2.6	
二支		15世	康46房	自隆	萬曆40~康熙19	鄉飲大賓	260.00	2.6		
四支		17世	楠9房	綏雯	順治8~康熙47	庠生	250.00	2.5		
大支		17世	恒15房	中涵	天啓2~康熙29		240.00		3,000	
大支		17世	恒10房	日涵	萬曆44~康熙21	庠生	200.00	2.0		
二支		16世	綬30房	日彩	天啓3~康熙17		200.00	2.0		
二支		17世	洪1房	爾繩	崇禎12~康熙49	錢塘廩生	200.00	2.0		
二支		16世	綬21房	日彰	萬曆42~康熙28	庠生	180.00	1.8		
二支		16世	綬27房	日彬	萬曆47~康熙26		160.00		2,000	
二支		17世	守20房	一徵	崇禎12~康熙36		160.00		2,000	
四支		16世	繹6房	荊	崇禎5~康熙47		150.00	1.5		
大支		16世	諧12房	建章	崇禎5~		100.00	1.0		
大支		17世	恒20房	丹書	天啓6~康熙46	庠生	100.00	1.0		
大支		17世	庶23房	圻聖	崇禎12~康熙53	廩生	100.00	1.0		
大支		18世	晉1房	式鉦	崇禎5~	舉人	100.00	1.0		
大支		18世	孚25房	聖基	順治7~雍正10	武生	100.00	1.0		
大支		18世	標1房	体仁	崇禎6~康熙36		100.00	1.0		
二支		17世	洪3房	爾絳	順治3~康熙38		100.00	1.0		
四支		17世	楠1房	廷榮	崇禎7~康熙42	庠生	100.00	1.0		
四支		17世	楠3房	鴻雯	崇禎12~康熙50	增廩生	100.00	1.0		
五支	16世	選47房	允佳	順治6~康熙26		100.00	1.0			
?	?	雯16房	?	?	?	100.00	1.0			
小地主	大支	18世	德10房	學遜	順治15~雍正1	庠生·例監	88.00		1,100	
	大支	15世	鸞23房	繼昌	萬曆36~康熙21		80.00	0.80		
	大支	16世	時29房	?	?	?	80.00		1,000	
	大支	17世	庶9房	堂	天啓3~康熙39	庠生	80.00		1,000	
	大支	17世	浩114房	戴之	萬曆45~康熙30	太學生	80.00		1,000	
	大支	18世	蕃44房	孫謀	順治10~康熙30	拔貢	80.00		1,000	
	二支	16世	禮6房	志夔	萬曆38~康熙27	庠生	80.00		1,000	
	二支	16世	週8房	佳兆	萬曆42~康熙40		80.00		1,000	

小地主	三支	15世	國23房	志尹	萬曆33~康熙40		80.00		1,000	
	四支	16世	繹1房	藻	天啓4~康熙40	杭州縣庠生	80.00		1,000	
	四支	16世	綠15房	國奇	崇禎6~康熙43	鄉大賓	80.00		1,000	
	四支	17世	楠7房	璧雯	順治4~康熙16	庠生	80.00		1,000	
	五支	16世	選21房	瑛	崇禎6~康熙14	庠生	80.00		1,000	
	?	?	亮12房				80.00	0.8		
	?	?	雯25房				60.00	0.6		
	四支	17世	嶺1房	隆昌	順治1~康熙28		56.00		700	
大支	18世	晉7房	雲銘	順治8~康熙60	大学生	50.00	0.5			
富農	五支	17世	發8房	乘時	順治9~	武生	47.00	0.47		
	大支	13世	元8房	宏傑	弘治6~正德11		44.00		550	
	大支	16世	時3房	之興	萬曆35~		44.00		550	
	大支	18世	標3房	汝霖	崇禎15~康熙58		44.00		550	
	大支	19世	曙3房	圭	順治12~康熙50	體儒林郎	44.00		550	
	大支	16世	広3房	隆昌	崇禎6~		40.00		500	
	大支	17世	浩54房	禧之	萬曆27~康熙20	庠生	40.00		500	
	大支	17世	浩101房	彝之	萬曆40~		40.00		500	
	大支	17世	庶24房	坦	崇禎4~康熙22		40.00		500	
	大支	17世	師5房	彪徵	順治6~康熙12		40.00		500	
	大支	17世	積1房	典讓	崇禎13~康熙30		40.00		500	
	二支	17世	完2房	有法	天啓6~康熙30		40.00		500	
	四支	15世	卯13房	一珪	天啓4~康熙23		40.00		500	
	四支	18世	聞11房	仲佳	順治3~雍正7		40.00	0.4		
	六支	16世	睦13房	國英	崇禎12~康熙49		40.00		500	
	五支	16世	選51房	世奇	順治9~康熙43	武生	36.00		450	
	二支	15世	儒1房	?	?		32.00		400	
	二支	17世	守10房	一元	崇禎2~康熙52		32.00		400	
	五支	16世	選10房	遜蓮	萬曆48~崇禎13		32.00		400	
	二支	17世	洪2房	爾純	崇禎15~康熙22		30.00	0.3		8.72
	大支	18世	迪35房	家登	崇禎6~康熙24		30.00	0.3		
	二支	17世	信2房	京雲	崇禎9~康熙18		26.40		330	
	大支	18世	迪18房	家鼎	萬曆48~		24.00		300	
	二支	16世	禮9房	馬肅	天啓2~康熙7	庠生	24.00		300	
	二支	17世	振10房	君錫	順治5~		24.00		300	
	?	?	夔20房	?	?		24.00		300	2.60
	大支	17世	浩73房	性之	萬曆33~康熙28		20.00	0.2		
	大支	17世	庶22房	城	崇禎11~		20.00	0.2		
	大支	19世	炳6房	薇	康熙4~雍正13	郡廩生	20.00	0.2		
	二支	16世	培9房	驥	崇禎9~康熙35		20.00	0.2		
	五支	18世	起1房	俊	順治5~康熙1	庠生	20.00	0.2		
	中農	五支	17世	久33房	曜俊	順治2~		19.20		240
大支		13世	元5房	朝端	弘治6~嘉靖45	舉鄉大賓	16.00		200	

中農	大支	17世	敬20房	紹烈	萬曆28~		16.00		200	
	大支	17世	竈6房	君隆	崇禎6~康熙47		16.00		200	
	大支	18世	標6房	翰翊	順治8~康熙31		16.00		200	
	大支	18世	迪31房	家翊	崇禎1~		16.00		200	
	大支	18世	晉19房	鼎	順治8~康熙37	庠生	16.00		200	
	二支	16世	綬17房	啓順	萬曆13~康熙24		16.00		200	
	二支	16世	環6房	就正	萬曆42~康熙29		16.00		200	
	二支	16世	兼5房	彰茂	天啓1~康熙44		16.00		200	
	二支	16世	泰9房	?	?		16.00		200	
	三支	15世	國26房	去道	萬曆47~康熙7		16.00		200	
	四支	16世	祿7房	國棟	天啓7~		16.00		200	
	四支	16世	繹18房	芬	順治6~康熙49	祠生	16.00		200	
	四支	17世	令42房	今煜	萬曆36~康熙6		16.00		200	
	五支	15世	選19房	孫英	天啓7~康熙20	郡庠生	16.00		200	
	五支	17世	誠2房	象坤	崇禎3~康熙27		16.00		200	
	?	?	琦3房	?	?		16.00		200	
	?	?	琦4房	?	?		16.00		200	
	?	?	琦13房	?	?		16.00		200	
	?	?	琦20房	?	?		16.00		200	
	大支	17世	豐19房	用行	萬曆44~康熙41		10.00	0.1		
	二支	16世	泰28房	泰阜	?		8.00		100	
	二支	16世	兼8房	彰芬	崇禎5~康熙31		8.00		100	
	四支	16世	繹16房	蘆	崇禎15~康熙49		8.00		100	
	四支	16世	祿1房	國禮	萬曆45~康熙13		8.00		100	
	四支	16世	祿22房	國樞	崇禎15~康熙38		8.00		100	
	不明	大支	17世	庶10房	何暮	天啓4~康熙23	監貢	?		17.42
四支		15世	鎮3房	泰禧	萬曆33~康熙32		?		0.70	
六支		16世	宜3房	広嗣	順治17~康熙61	監生	?		75.77	
		16世	宜5房	広居	康熙6~雍正2		?			
						11,680.60	92.27	34,420	105.21	

この表の示す通り、贖金総額は銀九二兩、銅錢三四千文、他に捐田百五畝を得ており、これにより祠産の基礎が確立されたことになる。

一方、表に示された贖金者の集団は当時の来氏一族の富裕層を網羅していると見られるから、この面で一族の富力や指導層内部の階層構成なども併せうかがうことができる。

先ず、この贖金者群が保有していると推定される土地保有高の総額は一一六八〇畝、即ち、一一六頃に達する。この面積は長河平原全体の田畝面積の数倍に達するもので、このことから来氏一族がこの地域で突出した支配的大地主集団であったことを推定し得る（但し、この推定総額は過大評価の可能性もある）。

次に、この表から来氏一族の指導層内部の階層関係をみてみると、合計一〇六名のうち（不明を除く）、大地主九名、中地主二二名、小地主二七名、富農三二名、中農二七名という構成になっている。この他、表1に見える第一六一七世の丁数は合計で二〇〇〇名に達するから、少くも一〇〇〇戸程度の小農（三〇七畝）貧農（二畝以下）或は佃戸が存在していたと推定されるが、今は考慮の外においておく。

さて、改めて中農以上の人数構成を点検してみると、地主が四八名で四五%、自作農（富農・中農）が五八名で五五%という比率になるが、土地所有面積の構成では、総面積一一五八〇畝のうち、地主が一〇一五四畝で八七・六%を占めるのに対し、自作農は一四二六畝で一二・三%を占めるにすぎず、地主層への土地集中の傾向が顕著である。特に大地主は人数比率では八%にすぎないが、土地所有高では全体の四七%（五五〇〇畝）を占めている。地主層への土地集中は清代の江南各地に共通する傾向であるが、来氏の場合は民国期の『浙江省農村調査』の示す浙西地区の状況に比べても、地主層への土地集中率が高い。これは長河鎮来氏が鎮居の商業地主であって、田土購入によって所

有地をふやしていたからであろう。また、表に見える生員、監生、貢生等の官途資格者の分布も地主層に厚く偏っている。例えば、これらの資格保持者は、大地主では九名全員（一〇〇％）、中地主では二二名中一名（五〇％）、小地主では一七名中一〇名（五八％）を占めるのに対し、富農では三一名中七名（二二％）、中農では二七名中四名（一四％）という風に階層が下がるほど比率が低下している。この時の祠産形成が大地主を中心とする地主層の主導の下で推進されたことは明らかである。

四 来氏祠産の蓄積と投資の拡大

さて、以上の醸捐により獲得した田畝一〇五畝と銀約一二〇両（錢三四千文は銀二七両に換銀）を基礎として、その後は米価の高騰を利用しながら祠産を蓄積し、各種の投資を拡大してゆく。祠産簿には康熙三三年（一六八四）から嘉慶七年（一八〇二）まで約一二〇年間にわたって、毎年の収入及び支出の諸項目が詳細に銀価格で表示されているので、以下では、これらの収支項目の中で特に重要なものをとりあげて、その推移を検討する。次の通りである。

I 収入を産出する諸要素

- A 田畝面積 購入、売却などで変動する保有田畝の毎年の現有額。（畝）
- B 収租米総量 保有田畝から生み出される租米総額。（石）
- C 耗米 保有米を銀に換える時に商人に運送の目減り分として与える控除米。（石）
- D 租米収入純額 租米総額（B）から耗米（C）を差引いた純収入額。（石）
- E 米価 米一石当りの銀価。（両）

II 銀収入

F 租米折銀額 租米純収 (D) を換銀した額。D × E。(両)

G 雑収銀 山地、池塘などから得られる雑収入。(両)

H 銀収入合計 F + G (両)

III 銀支出

I 公 課 糧銀、差銀、胥吏費 (冊書工食等)、水利費 (江塘銀等)、村落費 (祈雨錢、看荒錢、捕蝗錢、帮苗錢等)、保甲費 (巡夜米、究賊費等)、公費 (接官銀) 等、概ね保有田畝の面積に比例して科派される。但し、公費は原則なし。

J 祠産費 田土の購置費、宗祠や墳墓の修築・管理費、族譜の編纂・刊刻費、訴訟や禁約の文書費など。

K 祭祀費 春秋祠祭、元宵灯祭、冬至墳祭等に要する祭品費、分胙費等。

L 族政費 子弟の科挙受験のための費用 (文会費、応試旅費) と老弱者への賑給費 (毎年末二〇〜三〇石を充當) など一族の政治的環境を改善・安定させるための費用。

M 清算費 祠産会計の欠損補償、他の会計への移算 (貯蓄)、債権債務の清算、帳簿数字の誤差調整など。

N 銀支出合計額 上記 I ~ M の合計額。

IV 結 存

O 結存銀 前期残高に今期の収支を加減して得られる今期残高。O = I + H_n - N_n

以下、上記の諸項目を各年度にわたって示す (表 4)。帳簿の記載に不備があって数字を確定できない場合には、

表4：長河来氏祠産収支表

	I. 収入来源要素					II. 銀収入			III. 銀支出					IV. 結存	
	A 田 畝 保 有 数 (畝)	B 取 租 米 總 額 (石)	C 耗 米 額 (石)	D 取 租 米 純 額 (石)	E 米 銀 比 價 額 (兩石)	F 取 租 米 折 銀 額 [D×E] (兩)	G 雜 收 銀 額 (兩)	H 取 合 計 額 [F+G] (兩)	I 公 課 (糧 差 公 費 等) (兩)	J 祠 産 費 (塙 田・ 修 詞・ 修 講) (兩)	K 祭 祀 費 (祠 祭・ 灯 祭・ 昨 祭) (兩)	L 族 政 費 (賑 給 費 等 旅 費 文 會 考 試 費) (兩)	M 其 他 の 移 算 ・ 帳 簿 誤 差 ・ 清 算) (兩)	N 支 銀 合 計 額 (兩)	O 結 存 銀 額 (兩)
康照 ²⁰ ₂₂	105.2	123.0	△19.2	103.8	?	121.3	125.6	243.7	26.4	180.5	/	29.4	/	236.3	7.1
23	104.5	73.7	/	73.7	0.90	66.3	28.0	94.3	22.1	76.7	3.7	/	/	111.5	△10.2
24	105.5	88.3	?	89.1	0.85	75.7	9.1	84.8	16.1	35.3	1.1	/	/	52.5	32.4
25	107.7	77.2	?	81.4	0.90	73.3	2.5	75.8	39.5	6.7	0.6	/	/	46.8	61.3
26	106.9	89.3	△0.4	88.9	0.90	80.0	18.9	98.9	22.5	29.8	0.6	/	/	52.9	107.2
27	117.0	99.0	/	99.0	0.80	79.2	1.5	80.7	27.0	55.4	0.6	6.3	/	89.3	98.6
28	121.0	85.7	?	85.1	0.94	80.1	1.3	81.4	3.0	37.8	1.5	8.8	/	51.1	128.9
29	128.0	97.3	/	97.3	0.90	87.5	0.8	88.3	22.8	65.0	0.6	6.4	/	94.8	122.4
30	121.7	100.4	/	100.4	0.85	85.3	30.8	116.1	66.6	53.3	0.6	6.4	/	126.9	111.6
31	128.8	103.0	/	103.0	0.80	82.4	8.8	91.2	30.6	50.4	0.6	8.0	/	89.6	113.2
32	136.8	86.2	?	71.9	1.20	86.2	0.8	87.0	21.9	58.2	0.6	/	/	80.8	119.4
33	144.9	88.0	?	98.0	0.75	73.5	6.8	80.3	24.0	83.2	0.7	3.2	/	111.1	88.6
34	"	99.8	/	99.8	0.75	74.9	16.9	91.8	23.2	102.9	0.7	5.0	/	130.8	49.6
35	146.4	126.5	/	126.5	0.75	94.9	1.3	96.2	28.3	13.3	4.7	/	/	46.3	99.5
36	157.4	109.8	/	109.8	0.88	96.6	3.7	100.3	36.1	49.5	4.7	3.0	/	93.3	106.5
37	165.0	133.8	/	133.8	0.85	113.7	5.3	119.0	34.9	60.9	4.7	4.0	/	104.5	121.0
38	150.7	94.4	/	94.4	0.85	80.2	2.3	82.5	30.1	48.1	5.7	19.4	/	103.3	100.3
39	154.6	119.1	/	119.1	0.83	98.9	11.3	110.2	27.8	73.1	5.5	18.6	/	125.0	85.4
40	152.8	122.5	/	122.5	0.73	89.4	25.3	114.7	27.8	47.2	5.5	22.6	/	103.1	97.1
41	157.3	126.0	/	126.0	0.73	92.0	4.3	96.3	24.8	45.0	5.5	16.7	△4.9	87.1	101.3
42	165.2	119.8	△6.0	113.8	0.92	104.7	32.3	137.0	31.5	86.6	5.5	22.0	/	145.6	93.0
43	"	118.4	△6.0	112.4	0.95	106.8	4.3	111.1	26.3	/	5.5	0.8	/	32.6	171.5
44	"	123.1	△(5.6)?	128.7	1.05	135.1	7.3	142.4	3.2	133.2	7.8	23.1	△50.0	167.3	146.5
45	171.2	140.6	△(5.6)?	140.6	1.02	143.4	3.0	146.4	32.8	181.1	6.5	24.5	△0.4	244.5	47.6
46	173.2	123.8	△3.7	120.1	1.30	156.1	3.3	159.4	31.7	22.4	6.5	34.8	△0.1	95.4	112.5
47	"	132.6	△4.0	128.6	1.40	180.1	11.3	191.4	28.9	16.1	6.5	35.7	3.0	90.2	213.7
48	"	116.7	△3.5	113.2	1.32	149.5	3.3	152.8	6.9	182.4	6.8	34.4	△0.4	230.1	136.3
49	183.4	129.2	△3.3	125.9	1.02	128.0	12.4	140.4	33.9	117.3	6.8	27.6	/	185.6	91.1
50	"	143.2	△4.3	138.9	0.82	113.9	14.0	127.9	7.4	24.2	6.8	27.3	/	65.7	139.3
51	191.8	151.7	△4.5	147.2	0.80	117.7	14.0	131.7	44.2	78.1	6.2	31.2	0.6	160.9	111.5

蕭山縣長河鎮來姓祠產簿剖析

52	193.2	149.9	△ 4.5	143.4	1.03	144.6	14.0	158.6	33.4	15.3	7.8	54.9	／	111.4	144.7	
53	194.4	106.4	△ 3.1	103.2	1.10	113.5	14.0	127.5	35.5	11.9	7.8	60.0	2.5	117.7	114.6	
54	"	149.5	△ 4.5	145.0	0.85	126.3	14.0	139.3	36.0	2.2	7.8	40.8	／	86.8	193.0	
55	198.9	149.7	△ 4.5	145.2	1.50	174.2	14.0	188.2	39.6	48.6	7.8	45.8	△ 0.1	141.7	243.4	
56	202.1	154.1	△ 4.5	149.5	0.85	127.0	14.0	141.0	43.4	35.4	7.8	47.8	／	134.4	250.0	
57	205.1	156.2	△ 4.6	151.4	0.76	121.9	14.0	135.9	37.9	30.9	7.8	47.8	／	76.6	309.3	
58	"	131.3	△ 3.9	128.1	1.00	128.1	14.0	142.1	36.9	11.2	7.8	／	△ 0.2	55.7	395.7	
59	204.6	148.8	△ 4.5	144.3	0.95	137.1	47.3	184.4	37.4	201.2	7.8	41.5	△ 10.1	277.8	302.2	
60	"	124.1	△ 3.8	120.3	1.30	156.3	14.0	170.3	35.7	0.7	7.8	53.5	△ 0.1	97.6	374.9	
61	"	129.8	△ 3.9	125.9	1.10	138.5	40.5	166.4	36.4	35.4	7.8	45.0	△ 0.1	124.5	415.0	
雍正 1	"	125.9	△ 3.7	122.2	1.20	146.6	40.5	187.0	37.0	4.9	7.8	67.5	△ 0.1	117.2	484.9	
2	"	119.6	△ 3.6	116.0	1.30	150.8	41.4	192.2	40.4	2.5	7.8	72.5	△ 0.1	123.1	554.0	
3	208.8	117.0	△ 3.5	113.5	1.00	113.5	35.8	141.3	36.9	78.5	7.8	42.0	528.0	693.2	10.1	
4	"	78.6	△ 2.3	76.3	1.10	83.9	20.0	103.2	40.1	2.6	18.8	57.8	△ 0.1	119.2	△ 5.9	
5	"	147.9	△ 4.8	143.1	1.15	181.8	／	181.8	41.8	8.2	19.1	46.5	／	115.6	66.2	
6	210.1	152.4	△ 4.6	147.8	1.00	147.8	17.6	165.5	39.4	30.6	19.1	42.0	△ 0.1	131.0	100.6	
7	"	141.8	△ 4.3	137.5	0.85	116.9	20.1	137.0	30.8	9.4	19.1	54.0	△ 0.1	113.2	124.4	
8	212.8	136.1	△ 4.1	132.0	1.00	132.0	13.2	145.2	38.2	26.2	19.1	43.3	／	126.8	142.8	
9	214.8	143.8	△ 4.3	139.5	1.20	167.4	10.4	177.8	39.0	25.6	19.1	49.0	／	132.7	187.8	
10	217.8	135.1	△ 4.0	131.1	1.40	183.4	20.3	203.7	37.0	153.0	19.1	／	／	209.1	186.4	
11	"	164.1	△ 5.0	164.0	1.20	196.8	18.5	215.3	37.0	13.1	19.1	49.3	／	118.5	283.1	
12	219.1	168.2	△ 5.0	163.2	0.90	146.9	16.5	163.4	37.2	16.4	19.1	40.2	△ 0.1	112.8	333.7	
13	222.5	159.2	△ 4.8	154.2	0.86	132.6	13.4	146.0	38.5	54.4	20.1	54.0	／	167.0	216.7	
乾隆 1	220.3	172.4	△ 5.2	167.2	0.80	133.8	50.8	184.6	42.5	219.1	22.6	50.0	0.1	334.3	67.0	
2	"	158.0	△ 4.8	153.2	0.92	140.9	11.6	152.5	39.1	0.5	22.1	69.6	67.1	197.3	22.2	
3	"	130.3	△ 3.9	126.4	1.20	151.7	42.7	194.4	38.5	32.9	22.1	82.8	／	176.3	40.3	
4	"	174.9	△ 5.3	169.6	1.05	178.1	13.7	191.8	38.5	2.3	23.6	75.3	2.0	141.7	90.4	
5	"	178.9	△ 5.4	173.5	1.00	173.5	10.5	184.0	39.1	96.6	24.0	72.5	／	232.2	42.3	
6	"	167.7	△ 5.0	162.7	1.10	179.0	10.5	189.5	38.5	1.3	25.0	65.0	／	129.8	102.0	
7	"	168.4	△ 5.1	163.3	1.25	204.2	10.5	214.7	38.5	15.9	29.0	52.0	／	135.4	181.2	
8	"	169.6	△ 5.1	164.5	1.30	222.1	10.5	232.6	39.1	114.4	29.0	52.5	／	235.0	178.8	
9	"	151.3	△ 4.6	146.7	1.05	154.0	8.0	162.0	39.1	1.9	2.2	29.5	26.5	△ 0.4	113.9	227.0
10	"	187.7	△ 5.6	182.1	1.00	182.1	10.5	192.6	38.5	191.6	29.0	43.3	／	232.4	187.1	
11	238.0	194.9	△ 5.9	189.1	1.10	208.0	10.5	218.5	42.2	22.5	34.0	61.5	／	160.2	245.3	
12	242.1	166.7	△ 5.0	161.7	1.50	242.5	10.5	253.0	10.5	75.2	29.0	99.9	△ 0.1	214.5	283.9	
13	"	189.9	△ 5.7	184.2	1.60	294.7	10.5	305.2	43.0	86.0	29.0	92.6	／	250.6	338.5	
14	243.3	191.7	△ 5.8	186.1	1.40	260.6	10.5	271.1	47.8	66.0	29.0	78.1	／	220.9	388.8	
15	"	195.7	△ 5.8	170.5	1.30	221.6	21.1	242.7	42.6	32.9	31.6	90.1	△ 0.1	197.1	434.4	
16	"	141.2	△ 4.2	137.0	2.10	287.6	15.8	303.4	60.0	175.1	33.8	99.5	△ 0.1	368.3	369.5	
17	"	161.9	△ 4.9	157.0	1.40	229.2	18.7	247.7	145.6	5.8	34.5	103.2	／	289.1	328.1	
18	"	177.3	△ 5.3	172.0	1.30	223.5	34.6	258.1	42.6	1.5	33.3	90.4	△ 0.1	167.7	418.5	
19	"	180.8	△ 5.4	175.4	1.20	219.2	14.1	233.4	44.4	70.3	33.8	55.5	／	204.0	447.9	
20	244.0	86.7	△ 2.6	83.1	2.20	186.9	40.5	227.4	43.2	130.4	33.4	87.3	△ 0.1	294.2	381.1	
21	"	188.4	△ 5.7	182.8	1.60	292.4	12.4	304.8	61.5	3.5	38.5	106.8	△ 0.1	210.2	475.8	
22	"	189.2	△ 5.7	183.5	1.30	247.7	14.7	262.4	43.3	125.0	33.7	79.2	△ 0.1	281.1	457.1	
23	"	174.0	△ 5.2	168.8	1.40	236.3	14.1	250.4	43.2	132.6	32.8	78.1	△ 0.1	286.7	420.7	

乾隆24	254.8	125.8	△ 3.8	122.0	1.90	231.8	14.0	245.8	46.7	212.7	34.6	114.1	/	408.1	258.5	
25	273.2	224.7	△ 6.7	218.0	1.30	283.4	8.5	291.9	51.0	29.6	6.9	136.0	△ 0.1	253.4	296.9	
26	"	204.9	△ 6.2	198.8	1.50	298.1	14.1	312.2	49.5	14.5	36.8	103.4	△ 0.1	204.1	405.1	
27	"	188.2	△ 5.6	182.5	1.60	301.2	14.1	315.3	51.7	440.1	36.9	168.9	△ 52.0	645.6	74.8	
28	"	219.5	△ 6.6	212.9	1.40	298.1	20.5	318.6	48.8	25.3	37.1	109.4	△ 0.1	220.5	172.9	
29	271.6	198.0	△ 6.1	198.0	1.60	316.8	44.0	360.8	49.6	56.2	36.9	110.6	△ 0.1	253.2	280.5	
30	"	158.4	△ 4.8	153.6	1.95	299.5	8.5	308.0	55.2	17.3	39.4	222.3	△ 0.1	334.1	254.4	
31	"	199.5	△ 6.7	199.5	1.70	319.2	29.0	345.2	55.3	28.2	40.6	123.8	△ 0.2	247.7	351.9	
32	"	187.7	△ 5.6	182.0	1.70	309.4	12.8	322.2	55.2	125.0	45.6	123.8	30.0	379.6	294.5	
33	275.9	238.8	△ 7.2	231.6	1.85	428.5	18.8	447.3	61.3	86.2	45.8	193.1	0.1	386.5	355.4	
34	"	213.9	△ 6.4	207.5	2.10	435.8	11.6	447.4	63.1	54.4	49.8	155.6	/	322.9	479.9	
35	"	?	?	(108.7)	2.10	228.3	6.0	234.2	59.7	49.8	52.9	219.6	0.1	382.1	332.0	
36	"	?	?	(129.2)	1.80	232.5	6.0	238.5	57.1	1.3	50.8	200.9	/	310.1	259.5	
37	"	?	?	(183.8)	1.32	242.6	3.2	245.8	42.8	1.8	49.7	103.4	/	197.1	307.5	
38	280.9	?	?	(180.5)	1.32	238.3	3.3	241.6	64.7	1.0	50.1	109.1	△ 0.1	224.8	324.4	
39	"	?	?	(220.7)	2.00	441.5	/	441.5	63.3	194.4	51.4	191.1	0.9	501.1	265.7	
40	"	?	?	(218.0)	2.20	479.7	/	479.7	60.1	31.0	50.6	124.0	0.2	265.9	478.9	
41	"	?	?	(137.6)	1.57	216.1	/	216.1	68.8	22.8	56.1	15.7	△ 0.8	162.6	532.3	
42	"	228.6	△ 5.0	223.6	1.45	324.2	140.9	465.1	100.0	444.0	58.3	140.7	△ 2.0	741.0	236.0	
43	"	208.9	△ 6.7	202.2	2.75	556.1	15.4	572.6	84.9	3.9	52.9	150.8	△ 0.1	292.4	516.2	
44	"	218.2	△ 6.5	211.7	2.10	444.6	6.0	450.6	21.0	26.7	55.9	167.8	△ 0.1	271.3	695.3	
45	"	199.9	△ 4.3	195.6	1.90	371.6	31.0	402.6	64.0	2.0	56.2	160.6	△ 0.1	282.7	815.4	
46	"	212.0	△ 4.6	207.4	2.30	477.0	/	477.0	84.4	265.5	61.6	135.0	△ 0.2	545.8	754.3	
47	289.6	209.2	△ 4.6	204.6	2.00	409.2	2.4	411.6	80.2	22.1	61.4	111.2	△ 0.2	274.7	892.6	
48	"	190.9	△ 4.4	186.5	1.90	354.4	2.0	356.4	83.0	6.1	97.1	175.3	△ 6.3	355.2	894.3	
49	"	228.0	△ 5.0	223.0	2.05	457.2	2.0	459.2	91.8	6.3	97.8	120.5	△ 0.2	316.2	1037.2	
50	"	199.1	△ 4.3	194.8	3.50	681.8	/	681.8	83.5	453.7	98.1	191.2	△ 0.1	826.4	892.6	
51	292.6	200.8	△ 4.3	196.5	3.50	687.8	/	687.8	79.7	11.2	109.9	256.5	△ 0.2	457.2	1123.5	
52	"	232.9	△ 5.2	227.7	2.10	478.2	/	478.2	79.2	270.7	114.1	120.9	/	584.9	1016.8	
53	"	222.3	△ 4.9	217.4	2.10	456.5	/	456.5	80.7	4.5	122.2	206.6	/	414.0	1059.2	
54	"	212.7	△ 4.7	208.0	2.00	416.0	/	416.0	87.9	279.6	117.3	198.3	/	683.1	792.0	
55	"	215.4	△ 4.6	210.8	2.00	421.6	/	421.6	80.3	7.3	124.7	109.0	△ 0.1	321.2	892.4	
56	"	223.8	△ 5.1	218.7	2.20	481.1	/	481.1	83.5	5.2	123.2	114.2	/	326.1	993.6	
57	"	211.6	△ 4.8	206.8	2.50	517.0	/	517.0	44.3	5.5	116.8	212.4	/	379.0	1031.7	
58	"	211.6	△ 4.7	206.9	3.30	682.8	11.4	694.2	109.0	6.3	121.3	180.8	0.1	417.5	1308.3	
59	"	208.9	△ 4.3	204.6	3.50	716.1	/	716.1	109.0	30.1	123.3	300.4	0.1	562.9	1461.5	
60	"	217.2	△ 4.2	213.0	2.70	575.1	6.8	581.9	158.0	3.7	123.6	275.0	△ 0.1	560.2	1483.2	
嘉慶1	"	227.5	△ 4.3	223.2	2.20	491.0	6.9	497.9	115.6	29.8	83.5	142.7	213.4	△ 0.1	501.4	1479.8
2	"	224.4	△ 4.9	219.5	2.75	603.6	/	603.6	72.2	29.2	128.3	165.6	△ 0.2	395.1	1688.2	
3	"	213.5	△ 4.3	209.2	2.18	456.0	1.1	457.1	126.0	306.8	125.0	204.7	△ 0.2	762.3	1382.8	
4	"	214.8	△ 6.4	208.4	1.85	385.5	9.5	395.0	109.0	693.6	127.9	131.5	△ 0.1	1061.7	716.3	
5	"	211.2	△ 6.3	204.9	2.85	583.9	8.0	591.9	112.6	20.9	125.4	249.1	/	508.0	770.8	
6	"	207.6	△ 6.2	201.4	2.62	527.7	4.5	533.2	115.1	59.8	129.3	249.3	△ 0.1	553.4	879.8	
7	"	215.0	△ 6.5	208.5	2.60	547.6	3.5	551.1	328.3	34.4	133.3	161.8	/	657.8	673.1	
計									6316.3	8808.6	4638.0	10365.3	456.6	30584.8	/	
									20.6%	28.8%	15.2%	33.9%	1.5%	100%		

?と記す。またF、Oについては、祠産簿の数値と、実際の計算値とが一致しない場合があるが、その場合には、帳簿上の数値を記した上で、当該数値に×印を付す。

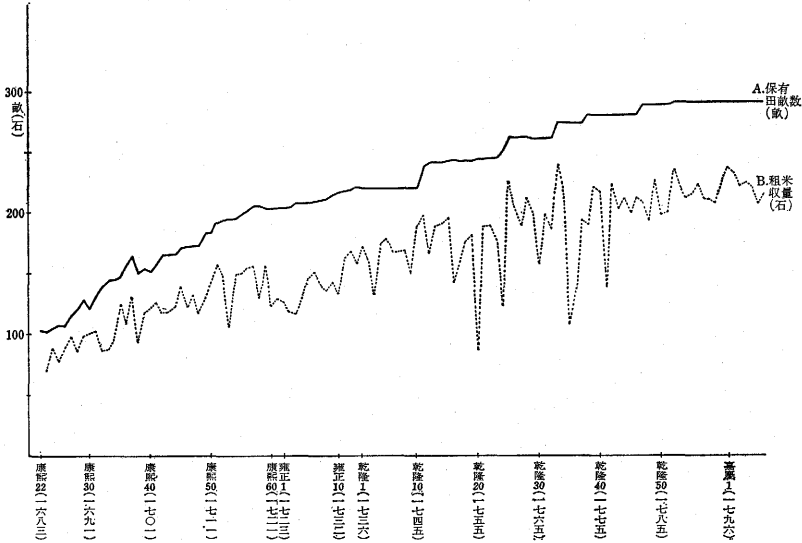
さて、先ず、収支項目の合計欄に示した数値により、祠産全体の推移の傾向をみてみる。この一二〇年間に田畝は当初の一〇五畝から約三倍に増加し(二九〇畝)、それに伴って銀収入も増加し、加えて米価高騰の効果もあって、銀収総額は当初の四倍から五倍(四一五〇〇兩)に達している。この一二〇年間に祠産財政は著しく強化されたと言ふことができよう。

次に支出の総額をみると、公課として全体の二〇%を負担する他は、祠産・祭祀費に四五%(祠産費三〇%、祭祀費一五%)をあて、残りの約三五%を族政費(科挙費九%、賑給費二五%、後掲表5参照)に充てている。祠産支出の形態としては当初に目的とした祭祀財産の蓄積維持の範囲を超えて広義の族政の問題にまで拡大してきていると言える。ただし、その内容には一二〇年の間の各段階でかなりの程度の力点の変化が見られる。従って、以下、費目間の変遷を検証するため、主要項目の変化をグラフで示す。

先ず、収入産出要素のうち、田畝数(A)と租米収量(B)の変遷をグラフに示す(図4)。又、収米を換銀する時に用いられた米二石の銀表示価格(米銀比価)の変遷のグラフを併せて示す(図5)。

さて、図4を見ると、保有田畝数は乾隆一〇年以降、顕著な増勢を示す。また租米収量の方も、時に荒年による急激な減少をはさみながらも、これまた乾隆一〇年以降、田畝の増加に対応して確実に増加している。一方、表6に見るごとく、米価は乾隆一〇年以降、騰貴の傾向にあり、乾隆末から嘉慶にかけて急騰している。従って、祠産収入全

図4 長河来氏祠産田畝数及租米収量変遷図



体としては、乾隆一〇年以降、租米収量の増加と米価の高騰の相乗効果により、銀収入が大幅に増加する大勢にあった(後掲図6参照)。一族としてはこのような有利な条件を背景として、祠産支出を多様化し、組織の拡大に向かうことが可能となったと言える。

次に、支出諸項目の変遷を総収入との関連で概観するため、総銀収入(H)、総収入から公課を控除した可処分収入(H-I)、及び祭祀費(K)、族政費(L)の四項目の変遷を同一の図に併記したグラフを示す(図6)。別に祠産費(J)の変遷を独立のグラフに示す(図7)。

なお、これらの支出項目(公課、祠産費、祭祀費、族政費)の内部の細目についても検討の必要がでてくるので、その細目数字を補足資料として示しておく(表5)。但しグラフは省略する。以下、各支出項目につき、その変遷の特徴を分析してみる。

(一) 公課の変遷

公課は祠産収入にとって常に負担すべき項目であるが、

図5 長祠来氏租米折銀所用米銀比價変遷図

蕭山県長河鎮来姓祠産簿剖析

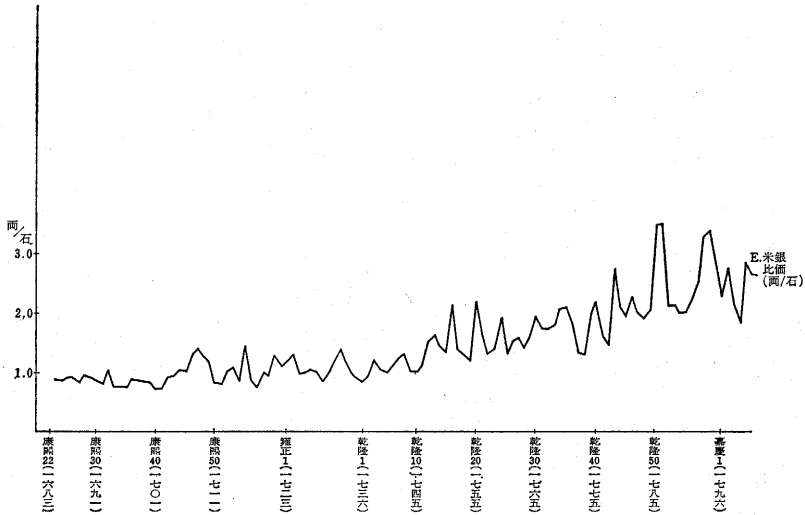


図6のグラフに示したように(斜線部分)一二〇年間の長い年月を通して比較的一定している。つまり田土が増加している割には増加していない。特に糧差は安定している(表5)。これは田土が増加しても、公課負担の對象としては一定の面積に固定されており、また荒年に減収が起きた場合には、糧銀の恩免を受けるからである。(表5の*印)。来氏の官僚地主、郷紳地主としての特権がここでは生きていけると言える。

(二) 祭祀費の変遷

祭祀費は図6に見るように緩やかに増加しており、公課と並んで安定した推移を示す。グラフを見ると、祭祀費は雍正初、乾隆三〇年、同五〇年に増加しているが、主に墳祭を拡大したためである。祭祀費自体が少額で支出総額の一五%を占めるにすぎず、しかも急激な増加はないが、乾隆後期から拡大の傾向にあることが認められる。²⁾

図6 長河来氏祠産總収、純収、族政費、祭祀費変遷図

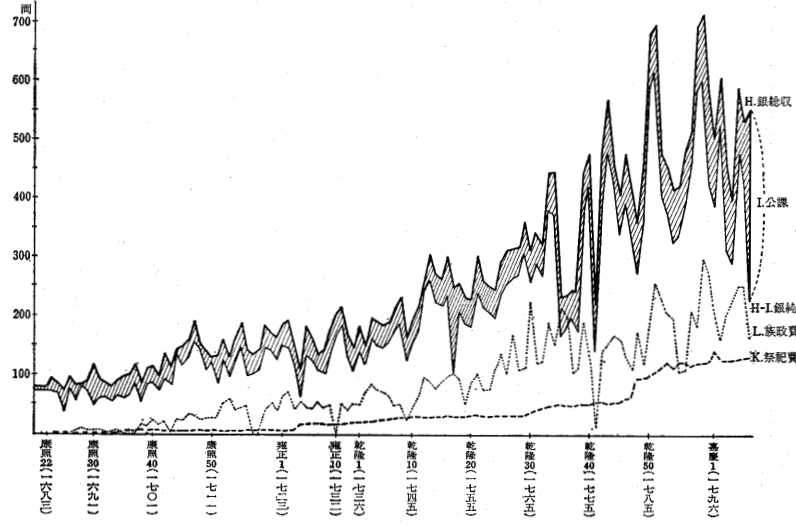


図7 長河来氏祠産費變遷図

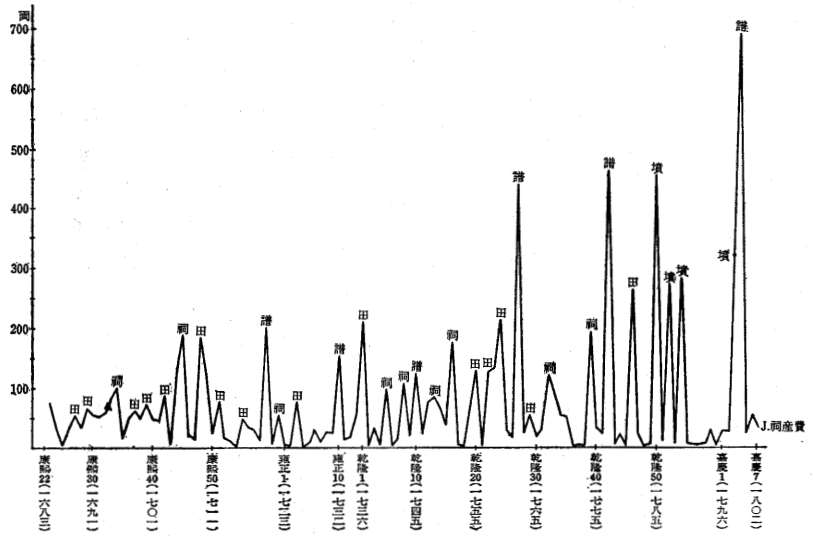


表5：長河來氏祠產支出明細表

項目 年次	公 課			祠 產 費				祭 祀 費				族政費	
	糧 銀	差 銀	公 費	置 田 費	修 祠 費	修 墳 費	修 譜 費	祠 祭 費	墳 祭 費	灯 祭 費	特 祭 費	科 舉 費	賑 給 費
康熙 ²⁰ ₂₂	26.4	/	/	180.5	/	/	29.4	/	/	/	/	/	/
23	16.2	5.9	/	74.0	1.6	/	10.1	3.7	/	/	/	/	/
24	16.1	/	/	25.1	/	/	10.2	1.1	/	/	/	/	/
25	17.2	22.3	/	/	6.3	/	0.4	0.6	/	/	/	/	/
26	17.1	5.4	/	29.0	/	/	0.8	0.6	/	/	/	/	/
27	16.0	11.0	/	54.5	/	/	0.9	0.6	/	/	/	6.3	/
28	2.2	0.8	/	35.0	/	/	2.8	1.5	/	/	/	8.8	/
29	19.2	3.6	/	65.0	/	/	/	0.6	/	/	/	6.4	/
30	19.7	12.7	34.2	28.8	15.0	/	10.5	0.6	/	/	/	6.4	/
31	20.6	10.0	/	49.5	/	/	0.9	0.6	/	/	/	8.0	/
32	21.9	/	/	58.0	/	/	0.2	0.7	/	/	/	/	/
33	23.2	0.8	/	63.6	3.8	/	15.8	0.7	/	/	/	3.2	/
34	23.2	/	/	1.5	70.9	/	30.5	0.7	/	/	/	5.0	/
35	23.4	4.9	/	11.3	2.0	/	/	4.7	/	/	/	/	/
36	25.7	5.4	5.0	46.1	/	/	3.4	4.7	/	/	/	3.0	/
37	26.4	8.5	/	58.4	0.4	/	2.1	4.7	/	/	/	4.0	/
38	23.9	6.2	/	35.3	11.6	/	1.2	4.7	/	1.0	/	2.4	17.0
39	24.5	3.3	/	62.7	7.8	/	2.6	4.5	/	1.0	/	2.0	16.6
40	24.5	3.3	/	46.4	/	/	0.8	4.5	/	1.0	/	8.0	14.6
41	24.8	/	/	45.0	/	/	/	4.5	/	1.0	/	/	16.7
42	26.3	5.2	/	83.3	0.3	/	3.0	4.5	/	1.0	/	0.8	21.2
43	26.3	/	/	/	/	/	/	4.5	/	1.0	/	0.8	/
44	3.2	/	/	/	127.8	/	5.4	4.5	/	1.0	/	/	23.1
45	27.8	5.0	/	60.0	120.5	/	0.6	4.5	/	3.3	/	4.8	19.7
46	28.1	3.6	/	20.0	0.9	/	1.5	4.5	/	2.0	/	8.8	26.0
47	26.1	2.8	/	/	12.0	2.3	1.8	4.5	/	2.0	/	7.7	28.0
48	6.4	0.5	/	150.0	1.7	0.7	30.0	4.8	/	2.0	/	8.0	26.4
49	32.2	1.7	/	117.0	/	/	0.3	4.8	/	2.0	/	7.2	20.4
50	5.9	1.5	/	20.0	2.2	/	2.0	4.8	/	2.0	/	6.4	20.9
51	33.3	9.9	1.0	77.3	/	0.8	0.6	4.8	/	2.0	/	7.2	24.0
52	33.4	/	/	14.0	0.8	0.5	/	4.8	/	3.0	/	24.0	30.9
53	33.6	1.9	/	11.3	/	0.6	/	4.8	/	3.0	/	27.0	33.0
54	33.8	2.2	/	/	1.8	0.4	/	4.8	/	3.0	/	15.3	25.5
55	34.6	5.0	/	40.5	7.5	0.6	/	4.8	/	3.0	/	9.8	36.0
56	35.1	8.3	/	34.0	1.0	0.4	/	4.8	/	3.0	/	22.3	25.5
57	30.0	2.3	/	30.0	0.2	0.4	0.3	4.8	/	3.0	/	/	/
58	35.6	0.4	0.9	/	10.7	0.5	/	4.8	/	3.0	/	/	/

康熙59	35.6	1.8	／	30.0	／	1.2	170.0	4.8	／	3.0	／	13.0	28.5
60	35.2	0.5	／	／	／	0.7	／	4.8	／	3.0	／	14.5	39.0
61	35.2	1.2	／	／	34.8	0.6	／	4.8	／	3.0	／	12.0	33.0
雍正1	35.2	1.8	／	／	4.3	0.6	／	4.8	／	3.0	／	31.5	36.0
2	35.2	3.0	2.2	／	1.8	0.7	／	4.8	／	3.0	／	33.5	39.0
3	36.9	／	／	75.0	3.0	0.5	／	4.8	／	3.0	／	12.0	30.0
4	35.9	4.2	／	／	1.5	0.6	0.5	4.8	11.0	3.0	／	24.8	33.0
5	35.9	5.9	／	／	1.2	0.6	6.4	5.1	11.0	3.0	／	12.0	34.5
6	35.9	2.0	／	14.6	15.5	0.5	／	5.1	11.0	3.0	／	12.0	30.0
7	29.9	0.9	／	／	8.9	0.5	／	5.1	11.0	3.0	／	28.5	25.5
8	36.2	2.0	1.5	21.5	3.9	0.5	0.3	5.1	11.0	3.0	／	13.3	30.0
9	36.5	2.5	／	25.0	／	0.6	／	5.1	11.0	3.0	／	12.0	37.0
10	37.0	／	／	43.0	／	／	110.0	5.1	11.0	3.0	／	／	／
11	37.0	／	／	／	／	0.6	12.5	5.1	11.0	3.0	／	13.3	36.0
12	37.2	／	／	14.0	1.9	0.5	／	5.1	11.0	3.0	／	12.0	28.2
13	38.5	／	／	44.0	10.0	0.4	／	6.1	11.0	3.0	／	28.0	26.0
乾隆1	38.5	4.0	／	／	218.7	0.4	／	6.1	11.0	5.5	／	25.6	24.4
2	39.1	／	／	／	／	0.5	／	6.1	11.0	5.0	／	42.0	27.6
3	38.5	／	／	30.0	2.3	0.6	／	6.1	11.0	5.0	／	56.6	26.2
4	38.5	／	／	／	1.8	0.5	／	6.6	11.0	6.0	／	42.5	32.8
5	39.1	／	／	／	96.1	0.5	／	7.0	11.0	6.0	／	42.0	30.5
6	38.5	／	／	／	0.3	1.0	／	7.0	11.0	7.0	／	32.0	33.0
7	38.5	／	／	／	0.3	0.6	15.0	7.0	15.0	7.0	／	14.5	37.5
8	39.1	／	／	／	113.7	0.7	／	7.0	15.0	7.0	／	12.0	40.5
9	38.5	0.6	／	／	3.7	0.5	15.0	7.0	15.0	7.0	／	26.5	／
10	38.5	／	／	／	4.1	0.5	117.0	7.0	15.0	7.0	／	13.3	30.0
11	42.2	／	／	／	1.9	0.6	20.0	12.0	15.0	7.0	／	12.0	49.5
12	10.5	／	／	69.0	3.1	0.8	2.3	7.0	15.0	7.0	／	30.5	69.4
13	43.0	／	／	／	83.8	0.8	1.4	7.0	15.0	7.0	／	18.0	74.6
14	42.4	5.4	／	40.0	3.9	0.7	21.4	7.0	15.0	7.0	／	13.0	65.1
15	42.6	／	／	／	30.3	0.7	1.9	7.0	15.0	7.0	2.6	29.0	61.1
16	42.6	17.4	／	／	174.0	1.1	／	7.0	15.0	7.0	4.8	15.5	84.0
17	42.6	1.7	101.3	／	5.1	0.7	／	7.0	15.0	7.0	5.5	39.0	64.2
18	42.6	／	／	／	0.8	0.7	／	7.0	15.0	7.0	4.3	34.5	55.9
19	43.2	1.2	／	68.0	0.3	2.0	／	7.0	15.0	7.0	4.8	18.0	37.5
20	42.6	0.6	／	126.0	0.3	1.1	3.0	7.0	15.0	7.0	4.4	13.0	74.3
21	43.3	18.2	／	／	2.7	0.8	／	11.5	15.0	7.0	5.0	33.8	73.0
22	42.7	0.6	／	114.0	0.3	0.7	10.0	7.0	15.0	7.0	4.7	16.8	62.4
23	42.7	0.6	／	117.0	4.9	0.7	10.0	7.0	15.0	7.0	3.8	13.0	65.1
24	44.7	2.0	／	197.0	0.9	1.0	13.8	7.0	15.0	7.0	5.6	31.3	82.8
25	48.1	0.7	2.2	／	2.9	0.7	26.0	7.0	15.0	7.0	7.9	58.0	78.0
26	48.1	1.4	／	／	3.7	0.8	10.0	7.0	15.0	7.0	7.8	12.0	91.4

蕭山縣長河鎮來姓祠產簿剖析

乾隆27	48.1	1.3	2.3	/	8.8	0.8	430.5	7.0	15.0	7.0	7.9	65.2	93.7
28	48.1	0.7	/	/	0.3	0.7	24.3	7.0	15.0	7.0	8.1	22.0	87.4
29	48.9	0.7	/	36.0	8.1	2.1	10.0	7.0	15.0	7.0	7.9	12.0	98.6
30	53.9	1.3	/	2.0	0.3	1.0	14.0	7.0	20.0	5.0	7.4	107.9	114.4
31	53.9	0.7	0.7	/	17.3	0.9	10.0	7.0	20.0	6.0	7.6	22.5	101.3
32	53.9	1.3	/	/	114.1	0.9	10.0	7.0	25.0	6.0	7.6	22.5	101.3
33	56.4	4.9	/	/	75.3	0.9	10.0	7.0	25.0	5.7	8.1	82.1	111.0
34	56.4	0.7	6.0	/	24.6	1.1	28.7	7.0	25.0	6.6	11.2	24.8	130.8
35	57.2	2.5	/	/	46.2	3.6	/	7.0	25.0	8.7	12.2	114.8	104.8
36	56.4	0.7	/	/	0.6	0.7	/	7.0	25.0	6.7	12.1	115.1	85.8
37	42.1	0.7	/	/	1.1	0.7	/	7.0	25.0	6.9	10.8	23.4	80.0
38	57.2	7.5	/	/	0.3	0.7	/	7.0	25.0	6.4	11.7	25.8	83.3
39	59.2	4.1	/	/	193.4	1.0	/	7.0	25.0	7.0	12.4	66.3	124.8
40	60.1	/	/	/	17.4	1.2	12.4	7.0	25.0	5.3	13.3	/	124.0
41	60.0	8.8	/	/	21.8	1.0	/	7.0	30.0	6.5	12.6	/	15.7
42	60.0	/	40.0	/	2.8	0.7	440.5	7.0	30.0	9.6	11.7	52.0	88.7
43	70.0	2.0	12.9	/	2.5	1.4	/	7.0	30.0	5.5	10.4	10.0	140.8
44	21.0	/	/	/	1.0	1.1	24.6	7.0	30.0	6.9	12.0	58.0	109.8
45	64.0	/	/	/	1.0	1.0	/	7.0	30.0	7.4	11.8	50.0	110.6
46	75.0	/	9.4	234.0	24.2	6.8	/	7.0	34.5	9.1	11.0	/	135.0
47	70.0	13.0	8.9	/	10.8	3.4	7.9	7.0	37.3	5.6	11.5	/	111.2
48	75.0	/	8.0	/	1.0	5.1	/	7.0	74.0	4.4	11.7	70.0	105.3
49	77.3	13.5	1.0	/	3.9	2.4	/	7.0	73.9	5.9	11.0	/	120.5
50	77.5	5.0	1.0	/	29.4	416.0	8.3	7.0	74.0	5.0	12.1	/	191.2
51	78.7	/	1.0	/	3.2	8.0	/	7.0	83.6	4.7	14.6	58.0	198.5
52	77.2	/	2.0	/	101.5	169.2	/	7.0	84.9	5.1	17.1	/	120.9
53	77.2	/	3.5	/	1.0	3.5	/	15.0	83.9	4.3	19.0	84.0	122.6
54	78.4	5.0	4.5	/	36.4	243.2	/	11.0	84.4	4.9	17.0	90.0	108.3
55	76.8	/	3.5	/	1.0	6.3	/	11.0	85.2	9.3	19.2	/	109.0
56	80.0	/	3.5	/	1.0	4.2	/	7.0	85.0	7.3	19.9	/	114.2
57	16.8	/	27.5	/	1.0	4.5	/	7.0	85.0	4.7	20.1	88.0	124.4
58	108.0	/	1.0	/	1.0	5.3	/	7.0	90.0	5.1	19.2	/	180.8
59	108.0	/	1.0	/	26.6	3.5	/	7.0	90.0	6.2	20.1	72.0	228.4
60	109.5	37.5	11.0	/	1.0	2.7	/	7.0	90.0	5.4	21.2	70.0	205.0
嘉慶1	108.0	3.6	4.0	/	21.6	8.2	/	29.0	90.0	5.0	18.7	30.0	183.4
2	42.2	2.0	28.0	/	23.6	5.6	/	11.0	90.0	8.2	19.1	/	165.6
3	108.0	4.0	14.0	/	304.8	2.0	/	7.0	90.0	9.1	18.9	52.0	152.7
4	108.0	/	1.0	/	52.7	3.9	637.0	7.0	90.0	11.0	19.7	10.0	121.5
5	111.6	/	1.0	/	16.0	4.9	/	7.0	90.0	8.6	19.8	58.0	191.1
6	108.0	/	7.1	/	55.2	4.6	/	7.0	90.0	11.2	21.1	88.0	161.3
7	108.0	2.3	218.0	/	29.8	4.6	/	7.0	90.0	15.9	20.4	/	161.8

(三) 族政費の変遷

科挙受験者のための文会費、旅費などの科挙費と、老弱者に対する賑給米（毎年二〇〜三〇石）の費用を合算したものである。科挙費は一族の政治力を高める費用、賑給費は族内の政治的安定を維持するための費用であり、何れも間接に一族の政治環境を改善するための政策費である。この費用は比較的高額で総支出の三五％を占めるが、図6に見るごとく、その額は総収入に比例して増減している（波型が一致している）。毎年、財政上の余裕のある範囲で最大限の負担していることがわかる。全体としてはやはり乾隆一〇年以降の増加傾向が著しいが、これもこの時期の来氏一族が組織統一に努めていたことの反映と見られる。

(四) 祠産費

これは、置田費、修祠費、修墳費、修譜費など、祠産への投資費用である（表5）。固定資産への投資としての性格上、一回の支出が巨額にのぼるため、数字の推移は不規則で不連続なものとならざるを得ない。図7のグラフの形に凹凸の激しいのはこの理由による。ただし、ここでも大勢としては、乾隆一〇年を境に総額が増加し、かつこれを境に内容にも変化が見られる。即ち、乾隆一〇年以前では、田土購入に重点を置いて比較的連続的に投資しているのに対し、乾隆一〇年以降では、祠堂、墳地の修築や族譜の編纂刊刻に対する間歇的な投資が多くなる。特に修墳と修譜にしばしば巨費を投下している。これは当時、分裂、分散していた六支派を広く包括した統合族譜を作るようになったため、費用がかさんできたことによる。また乾隆五〇年に尨大な費用をかけて墳地を修理しているのも六支統合を指向したものである。このように祠産費の運用の上に乾隆一〇年以降のこの一族の組織統一努力が反映していると見ることができよう。

要するに祭祀費、族政費、祠産費の何れの項目においても、乾隆一〇年〜二〇年を境に著しく上昇している。来氏一族がこの時期に祭祀、族政、祠産の各分野で同族組織の統一、分支の統合に全力をあげ始めたことをこの数字の變化から推定することができよう。

五 来氏における輩行字統一

以上、祠産の面から清代中期以後の来氏の組織拡大への努力を見てきたが、この一族においては同じ頃に分支間の輩行字を統一しようとする動きが出はじめていた点に注意したい。周知のごとく、輩行字とは宗族の各世代ごとに命名された世代表示のための「記号文字」を指す。同族成員の間で世代の尊卑を互に識別し易くする目的で創始されたもので、記憶の便のため、四世代或は五世代ごとに四字句或は五字句の成句又は詩句を配当させることが多い。例えば、長河の東方、唐里陳氏の場合、始祖から七二世まで、四世代ごとに次のような成句により各世代に輩行字を配当している。

1 2 3 4 / 5 6 7 8 / 9 10 11 12 / 13 14 15 16 / ∴

元会運世 / 陰陽太極 / 宗祖子孫 / 承功繼徳 / ∴

四字句を重ねているので記憶し易く、かつ各字の後に同世代人の生年月日順に番号を付して〈元一〉、〈元二〉の如く示せば、同族内における尊卑長幼の關係が明確に表現できる。大宗族の場合には族譜の編纂に役立つなど、便利な点が多い。

ただこの輩行字は共同生活をしている範囲内で有効に働き、維持されるが、移住により分派が生じて別の輩行字が用いられると、輩行字の分裂が起る。一般に分派、移住が多いほど輩行字は分裂する傾向が強い。ただ江南の場合、明代に入って、支派を統合する動きがでてきて、この場合には、分裂していた輩行字が逆に再統合されるケースが現われてくるという。或は従来、余り同宗意識のなかった同姓異宗の集団の間にも同姓としての連合の機運が起り、通譜により血縁関係を擬制的に形成する場合があります、この場合にも輩行字の統合が行なわれる⁽³⁾。但し、宋代以前に江南に移住してきて、分派の激しい宗族の場合には、明代以降に輩行字を統合しようとしても簡単には実行できないケースが多い。来氏の場合も、南宋初めに蕭山に入ってから、移住分派による輩行字の分裂が甚だしく、その統合は容易ではなかったが、嘉慶以後になってようやく統一の機運が起り、清末の同治・光緒間に統合に成功している。上述の清代中期以来の一族のリーダーによる修祠、修墳、修譜の継続、祭祀の拡大、族政費の投入などの組織統一の努力が最後に清末に至って、輩行字の統合という形で結実したといえることができる。以下、この一族の輩行字統一への過程を見ておく。但し、この一族の輩行字は明清間に甚だしく分裂していて全体を表示することは困難なので、ここでは、便宜上康熙二〇年の祀産形成に際して醴金を行なった有力者(表3)のうち、所有田畝四四畝以上の者(大中小地主と富農上層)についてのみ、その輩行字の変遷を表示する(表6)。表中、醴金者の輩行字には*印を付す。また、康熙二四年に遅れて追加の醴金(四両)を行なった高三六房(五支一五世、始魁)の(高字)も含めて表示する。

表を一見してわかるように、各輩行字系列は概ね四世ごとに四字の成句を当てる形で作られている。例えば、第三支の「国泰民安」「升高吉瑞」第四支の「衍錦互文」、第五支の「功德相承、錦繡文章」などが目につく。成句の句切は概ね一三一―一六世、一七一―二〇世、二五一―二八世の形で揃っているが、第三支ではずれている。各支の間で必ずしも相互

表 6：長河來氏輩行字變遷表

	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
大支	口	軒	遠	元	會	明	嶽	恒*	德*	聘	豫	縉	受	中	瑄	閏	餘	成	歲
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	率	充	敦	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	盈	仰	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	諤	運	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	聰	厚	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	敏	化	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	文	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	純	泰	坤	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	和	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	咸	學	應	是	瑞	安	寅	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	寧	容	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	康	和	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	盛	仁	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	標*	炳	堉	鈺	洽	×	"	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	銘	×	"	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	祐	吉	申	×	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	掇	傅	栢	埭	顯	謙	根	水	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	浩	迪	鼎	品	岡	諒	錦	秀	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	仁	"	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	超	裕	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	玲	勁	"	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	資	定	紀	恭	尊	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	福	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	瞻	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	官	寬	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	典	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	光	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	暢	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	榮	古	月	福	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	英	耀	垂	永	鍾	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	履	昭	敷	蕘	根	變	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	凝	楷	擇	涵	祖	發	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	瑞	"	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	啓	貢	耿	悟	"	"	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	琮	蓋	伸	根	綿	禹	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	奕	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	冠	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	昌	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	宮	有	雅	"	"	"	"

大支	"	"	"	"	"	"	"	"	焜	峻	鉦	葆	濼	辰	聖	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	詩	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	長	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	汝	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	卓	綸	忠	康	嶽	流	譜	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	能	賢	鍾	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	魁	章	潤	樹	翰	秀	國	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	數	聖	昕	虹	庸	助	譜	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	友	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	漣	孝	"	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	虹	价	唐	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	信	"	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	萬	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	毅	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	文	饒	斌	嶽	虔	鈇	春	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	獻	階	欲	馨	培	之	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	彤	郁	桂	昌	"	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	正	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	穎	恬	晟	崑	"	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	錫	吉	瑄	甲	"	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	泉	徵	忠	信	純	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	錦	善	性	理	祜	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	春	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	蕃*	曙	錫	泗	岑	靖	義	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	瑜	紳	檀	需	泰	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	燕	壻	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	旬	祺	桂	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	琳	杰	基	祺	朱	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	庶*	晉*	甲	煥	壻	勿	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	威	儀	紳	紜	坤	杏	"	"	"	"
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	蒞	銓	"	"	孫	"	"	"	"	
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	銓	沈	耕	楷	"	"	"	"	
"	"	"	"	"	"	"	"	鸞	諧*	歷	佑	撫	廉	銓	先	"	"	"	
"	"	"	"	"	"	"	"	陽	觀	臨	豐	孚*	宰	細	"	"	"	"	
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	震	成	"	"	"	"	"	
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	效	援	讓	"	"	"	
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	鶴	在	錫	"	"	
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	名	"	"	"	"	
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	高	"	"	"	"	"	
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	人	義	球	得	"	"	"	"	"	
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	宗	敏	崑	昇	"	"	"	"	"	
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	佩	景	菁	永	"	"	"	"	

二支	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	城	"	"	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	誠	"	"	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	挺	韶	靖	"	"	"	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	茂	"	"	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	程	雄	芮	"	"	"	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	宋	柏	鶴	全	"	"	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	洪	彝	統	復	福	鑑	和	"	順	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	公	"	"	培	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	鍼	"	"	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	霖	"	"	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	恭	義	"	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	鎰	"	"	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	森	"	波	"	"	"	"	"	"
	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	邵	"	誠	瞻	"	"	"	"	"	"
	"	"	宗	寧	康	泰	×									"	"			
	"	"	安	"	"	"	×									"	"			
	"	"	英	普	華	遇	生	匡	穎	麩	成	肅	"	"	"	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	莊	"	"	"	"	"	"	"	
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	鈇	濡	楨	"	"	"	"	"	"	
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	涵	棟	"	"	"	"	"	"	"	
三支	勉	崑	森	穎	國	泰	民	安	承	琳	升	升	吉	瑞	"	"	"	"	"	
	四支	岳	良	有	殷	冠	驄	令	聞	經	能	容	授	標	始	基	善	"	"	"
		"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
"		"	"	"	"	"	"	"	"	"	緯	邦	家	金	君	賢	"	"	"	
"		"	"	"	"	"	"	"	"	"	樑	羽	丙	勤	"	"	"	"	"	
"		"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	高	辰	"	"	"	"	"	"	
"		"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	源	"	"	"	"	"	"	"
"		"	"	"	"	"	"	楠	鴻	珪	英	綸	絲	純	紳	粹	華	"	"	"
"		"	"	"	"	"	"	"	焄	堡	鈞	申	榮	"	東	姚	"	"	"	"
"		"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	溥	椿	煜	伸	釗	"	"	"	"
"		"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	淳	桔	炳	"	銳	"	"	"	"
"		"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	楨	"	"	"	"	"	"	"
"		"	"	"	"	"	"	令	聞	經	洵	曉	暉	淙	梓	榮	餘	"	"	"
"	"	"	"	"	"	"	"	銓	冕	達	榮	望	傳	泉	"	"	"	"	"	
"	"	"	品	爵	禩	嶺	懋	上	熙	衍	絺	巨	文	道	義	"	"	"	"	
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	廣	倫	序	承	"	"	"	"	"	"	
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	億	滋	朔	"	"	"	"	"	"	"	
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	謙	膏	澤	"	"	"	"	"	"	"	
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	進	利	璧	"	"	"	"	"	"	"	
"	"	"	更	麟	銷	繹	肇	徵	猷	勳	名	"	"	"	"	"	"	"	"	
"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	
五支	"	"	乾	忠	高	原	久	顏	毓	虹	玕	丁	純	法	粹	餘	"	"	"	

に連絡をとっていなかったことを物語る。

さて、この表から輩行字の分岐と併合の状況をみると、祀産形成を担った第一五、一六、一七世（明末清初）の段階では、各支の輩行字は比較的少なく、統一がとれていたのが続く第一八、一九、二〇世（清代前半期）に入ると、却って輩行字の分裂が激しくなっている。この傾向は清代中期の第二一、二二世においても変わらず、むしろ分裂が激化しているが、清代後期に入る第二三、二四世に至って漸らく再統合の動きが出てくる。例えば、大支二四世の譜字、全字、第二支二三世の和字、二四世の望字、培字、第四支二三世の承字、二四世の文字、第五支二三世の冬字、和字、緒字、二四世の漢字、華字などで、それ以前の輩行字の分岐を統合する動きを示している。おそらくこの頃、各支、各房の間で輩行字再統合の協議が行なわれていたものと推定される。そして、この動きを受ける形で清末民国初期にかかる第二五、二六、二七、二八世の四世代について、統合のための新輩行字として千字文の一句「閩餘成歳」の四字をあてることで六支の間の合意が成立したらしく、大支、第二支、第三支、第四支の四派は、第二五世からこの新輩行字を用い始める。ただし、第五、第六支は内部の意見調整がおくれたためか、一世代おかれて第二六世から新輩行字に合流している。従って、来氏全体が完全に輩行字の統一を実現したのは、民国初年ということになる。

統合の結果、各世代は同一輩行字に属することになったが、逆に各支の排行番号は尠大な数字になった。族譜は、民国八年における第二五、二八世の新輩行字所屬者数を各支派別に統計して記している。次の通りである（表7）。

この表は、新輩行字が各支で用いられはじめた過渡期の統計を示したものであるが、それでも、例えば、第二五世で閩字に属する者は、大支一〇五八人、二支六〇六人、三支七七人、合計一七四〇人に及ぶ。第二六世の餘字排行は中途進行中であるが、大支七〇六人、二支一五四人、三支三五人、合計九八一人を数える。恐らく完全に新輩行字の

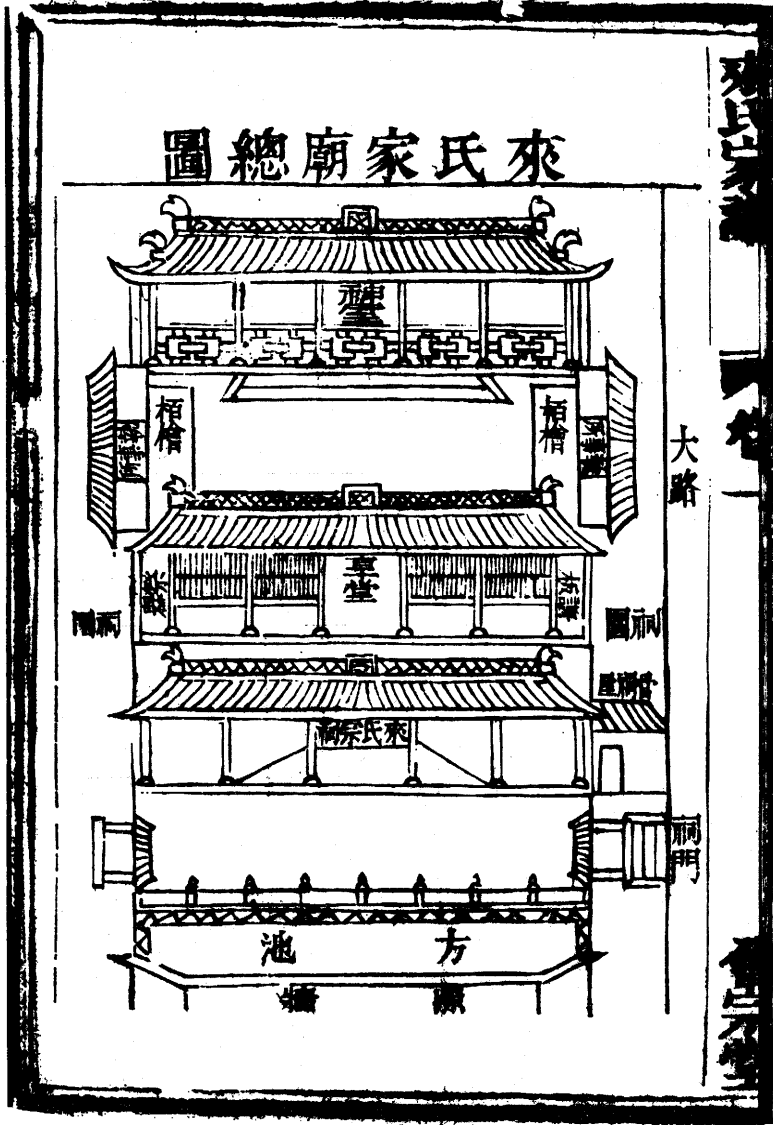
表7 長河来氏第二十五至二十八世輩行別統計表

	大支	二支	三支	四支	五支	六支
二五世	閏一〇五八人	閏六〇六人	閏七一人 (註一)	基明賢粹 姚劍銀榮 章秀庚清 道喜汝源 咸	棠梓基規 炳煥炯綿 梧康鈞興	原欠
二六世	餘七〇六人	餘一五四人	餘三五人 (註二)	善華餘漢 周陽岡義	餘八六人 (註三)	原欠
二七世	成二〇一人	成七人	成一人	成八六人	成? (註四)	原欠
二八世	歲? (註五)	未出生	未出生	未出生	未出生	未出生

註一 庚申年起、落統増添、不能排定前後。
 註二 庚申年起、均未行定。
 註三 庚申年起、尚未行定。
 註四 成字均已行齊。
 註五 歲字排行、已行齊。

適用が終った段階では各世代の新輩行字所屬者は二〇〇〇〜三〇〇〇人になる筈である。これだけの人数に毎年正確に生年月日順に輩行字と排行番号を割当ててゐるためには、常に正確な族譜を用意し、かつ新丁を確実に記録する登記組織を維持する必要がある。来氏の場合、族譜所録の宗祠図(図8)を見ると、中堂右軒に譜板を保管する場所が設け

圖8 長河來氏宗祠（家廟）圖〔東洋文庫藏『長河來氏族譜』所收〕



られており、宗祠を登記所として活用していたものと思われる。逆に言えば、これだけの組織力と事務体制を完備しなければ、統一輩行字を運用することは困難なのであるが、このような体制は一朝一夕に出来あがるものではない。来氏の場合でも乾隆末から祭祀拡大や修祠、修墳、修譜に力を注ぎ、分支統合のための基盤を整備してきたことが一〇〇年の後に輩行字統一の体制を樹立する前提となったと見なくてはならない。

六 結 語

以上、長河来氏の組織形成過程について概観した。来氏は、明初から進士を輩出し、早くから長河の名族としての声望を得てきたが、実質的にこの地区の支配者としての組織力を充実させたのは、清初第一七世祖以降のことであり、特に人口六―七千を擁する大郷族となったのは、清代中葉後期、乾隆末年―嘉慶初年以降のことである。ひるがえって考えるに、江南宗族の族譜の編纂もやはり乾隆末年から嘉慶―道光期にピークを示す。この点は宗教や風俗の面にも及んでいて、例えば、江南の宗族では、この時期に従来、儒礼のみで行なわれてきた宗祠祭祀に俗礼としての演劇が導入され始める。⁽⁴⁾これは、組織の肥大化に伴って、おのずから宗族員の血縁意識や祖先祭祀の觀念がうすれてきていた江南宗族において、族員間に新たな連帯意識を作り出すために宗族が新たに打ち出した宗祠祭祀の拡大策の一環であったと思われる。

要するに江南宗族の多くは、この清代中葉後期以降に、祠産、族譜、祠祭の各局面にわたって組織の統合強化に全力をあげたのであり、長河鎮来氏のケースは、その一つの典型的事例と見てよいであろう。族譜に収める『祠産簿』からは、なお多くの組織上の変化を読みとることができるものと思われるが、本稿では、清中葉以降の大勢を素描す

るにとどめ、細部の点は、今後の検討に待ちたい。

1 来集之（原名鏞、字元成）は劇作家としても有名、傅惜華『清代雜劇全目』（人民文学出版社、一九八一）巻一（清初時期雜劇家作品（上））の条に次の如く小伝を記す。

来集之、原名鏞、字元成、号元成子、浙江蕭山人、明啓禎間、内閣大学士来宗道子。学問淵博、才名早著、而未得一第。崇禎末僅由明經起家、官安慶府推官。明万曆三十二年（一六〇四）生、清康熙二十一年（一六八二）卒。著有說易隅通、卦義一得、易函親見、倘湖樵書、博學彙書等。工製曲、有雜劇三種、總名兩紗、又三種、總名秋風三疊、俱伝於世、頗多牢騷之作。

2 田仲一成「清代浙東宗族の組織形成における宗祠演劇の機能について」『東洋史研究』第四十四卷第四号、一九八六年）六三九—六四二頁に詳論。

3 上田信「地域と宗族——浙江省山間部——」『東洋文化研究所紀要』第九四冊、一九八四年）

4 田仲前掲論文。